

介護経営術

vol.31

5Sによる 組織マネジメント

5Sとは

5Sとは、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」をローマ字にした頭文字を取ったものです。5Sは、自動車製造で有名なトヨタ自動車株式会社が初めて実践したといわれています。今では、製造業やサービス業など、幅広い分野で実践されています。

今回は、5Sを正しく理解し、組織マネジメントにつなげる方法をご紹介します。

①「整理」でスペースと時間を有効活用

「整理」には、「不要なものを取り除くこと」という意味があります。介護事業所に限らず、どの企業も少なからず、他人の目につかない倉庫や棚な

どの整理が疎かになることがありません。そのため、倉庫は段ボールであふれ、多くの場合、使用するときわざわざ探すという無駄が発生してしまっています。

「整理」の第一歩は、倉庫の物品を使用頻度別に分けることです。そして、使用していないものを処分することで、物を探す時間が減り、スペースと時間を有効に活用できるようになります。

②「整頓」で作業効率アップ

「整理」と「整頓」を混同している方も多いかと思いますが、「整頓」とは、「散らかり乱れているものを、きちんと片づけること」です。

たとえば、バイタルサインを測定するために体温計や血圧計、パルスオキシメーターなどを一つのカゴにまとめ、使用するときはそのカゴを持って

いくことで効率化している介護事業所があります。

このように、一連の作業を行うために使いやすいよう収納することが、「整頓」です。つまり、「整頓」は、単純に物を収納するのではなく、作業工程を考え、誰もが使いやすいように収納することなのです。

このように、「整理」と「整頓」をすることで、作業効率は格段に上がります。

③「清掃」で気持ちのよい環境をつくる

「清掃」は、どこの事業所でも行っていると思います。しかし、5Sの「清掃」は、単に清掃を行うのではなく、「清掃を行う目的を、職員全員が理解して実施すること」という意味があります。

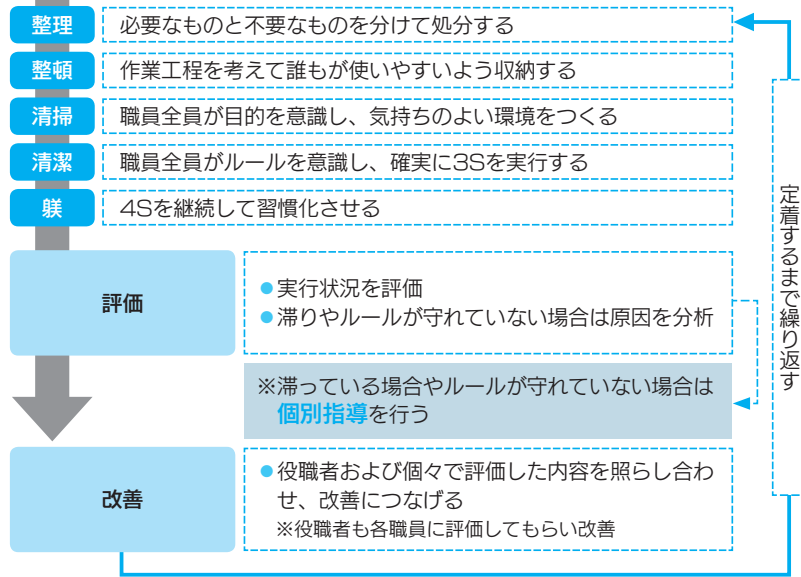
職員によっては、とてもきれいな好き



金沢 幸蔵

株式会社川原経営総合センター
経営コンサルティング部門

図表 5S定着までの流れ



株式会社川原経営総合センター作成

で、床にゴミ一つ落ちていない状態を保つ人もいれば、清掃時間や担当でなければ、ゴミが落ちていても気にしないという人もいます。

職員全員が理解して「清掃」を実践することで、より細かい清掃が行えるようになります。これは、誰もが気持ちよく過ごせる環境づくりにつながります。

4 「清潔」の実践で

ルールを守る組織を構築
「清潔」と聞くと、介護事業所では

消毒などを思い浮かべる方も多々と思います。もちろん、消毒で清潔を保つことも重要ですが、消毒は「清掃」に含まれています。

5Sという「清潔」には、「決められたことが確実に守られ、気持ちのよい職場を維持すること」という意味があります。

また、「気持ちのよい職場」という言葉には、「見栄え」や「職員の態度」「言葉遣い」も含まれているといわれています。これは、「清潔感のある人」を思い浮かべると理解できると思います。

前述した3Sを確実にを行うことで、誰がみても無駄がなく、きれいな状態になります。設備や備品だけでなく、そこで働く職員も含むすべてが対象となるのです。

「清潔」を保つためには「ルール」が必要です。そのため、全職員が守るべきルールをつくり、リーダーが、ルールを守るリーダーシップを発揮することが、「清潔」の維持には重要だといえます。

5 「躰」であるべき姿を習慣化

「躰」とは、以上の4Sを習慣化することです。

「躰」に関しては、子育てを思い浮かべる方が多いと思います。たとえば、「人に会ったらいさつをする」や「約束事は守る」などがあると思います。

親が「躰」を行うのは、子どもがどこへ行っても恥をかかないよう、正しいことを習慣化させるためだと考えられます。5Sの考え方も同様です。

「躰」とは、役職者が管理能力を最大限に発揮して、個々の職員に「できていること」と「できていないこと」を明確に伝え、教え込み、強制してでも習慣化させることなのです。

しかし、強制的に「やらせる」ことを繰り返すと、反発にもつながります。「躰」を成功させるためには、役職者が「職員とともに行う」姿勢で手本を示すことが重要です。そして、これが組織マネジメントでもあります。

最初は「整理」「整頓」から

5Sの本質は、職場環境をあるべき姿にすることで職員の考え方や態度などを変え、組織があるべき姿につなげていくことにあります。5Sを定着させるためには、定期的な評価と改善を継続していくことが重要だといわれています。そして、滞ったり、ルールが守られなかったりした場合は、放置せずに必ず個別指導を行うことが求められます。

手始めとして、事業所の設備や備品の「整理」と「整頓」を、全職員で行ってみたいかがでしょうか。